

「富山県植物誌改訂版編集のための維管束植物チェックリスト」の 印刷配布と学会等での発表・普及

富山県植物誌改訂版編集委員会

1. はじめに

植物誌とは、ある地域（この場合富山県）のどこにどのような植物が生育しているかを記載した「植物の戸籍」ともいえるもので、地域の植物自然史研究や多様性保全の基礎となる文献である。富山県では、1983 年に大田 弘・小路登一・長井眞隆の 3 氏によって初めて刊行され、約 2500 種類の維管束植物が掲載された。

この『富山県植物誌』は、著者自らの述懐によると、置県 100 年に間に合うように急遽出版されたため、採集した標本はあるが証拠標本に基づく記載にはなっておらず、また 3 人とも県東部在住であったことから、交通事情の悪い県西部に未調査地域が多いなど課題が残るものであった。

出版から 30 年が経過した結果、その間に新しく記録され富山県産植物として追加収録すべき分類群は約 500 に達し、植物分類学の最新の知見を取り入れ、新しい APG 分類体系による科名の変更に対応した改訂版の発行が必要となったことから、2014 年 6 月、著者の一人である長井眞隆氏を会長として、県内の植物研究者 21 名からなる「富山県植物誌改訂版編集委員会」が発足し、標本庫を擁する富山市科学博物館および富山県中央植物園を中心として、富山大学、富山県立大学、魚津市埋没林博物館などの関係機関や個人による調査が開始された。これら編集委員会発足に至る経緯や活動については大原（2017）に詳しい。



1983 年に発行された富山県植物誌



富山県植物誌改訂版編集委員会の発足会議(2014 年)

2. チェックリストの編集

当初、富山県植物誌改訂版の発行は 2018 年に予定されていたが、現役で仕事を持つ委員が多いことから作業は遅々として進まず、見通しが立たない現状であったことから 2019 年に方針を変更し、足掛かりとして事務局で『富山県植物誌改訂版編集のための維管束植物チェックリスト』（以下、チェックリストと略記）を作成することになった。チェックリストは、富山県植物誌改訂版の掲載植物目録に相当

するもので、検索表や特徴の記述、分布図が省略され、分類群ごとに和名、学名またはメモ、出典文献、標本所在場所、外来在来種の別、絶滅危惧情報、が1行でまとめられたものである。

作業は2020年に始まり、太田道人（代表編集委員）作成のTOYA（富山市科学博物館標本庫）標本データベースを石澤岩央（編集幹事）がTYM（富山県中央植物園標本庫）のデータと統合、さらに標本データや文献情報などを加えたリスト原本を作成し、問題のある種については、石澤、太田、大原隆明（代表編集委員）、中田政司（事務局長）の4人が富山市科学博物館で一種ずつ標本を検討しながら検討を重ね、石澤が最終的な印刷原稿を作成した。この間、セリ科は富山県立大学の鈴木浩司、マツ科他は佐藤 卓、ササ類は高橋一臣、アザミ類は東 義昭の各編集委員が再検討を行い、各科の担当編集委員も確認に加わった。

3. チェックリストの内容

2021年3月に完成したチェックリストには、『富山県植物誌』に記載されている全植物のほか、同書発行後に富山県内で自生（帰化・逸出を含む）が確認された証拠標本を伴う維管束植物、郷土になじんでいる植栽樹木の一部、『富山県の絶滅のおそれのある野生生物』（富山県 2012）に収録されている維管束植物で上記以外のもの、が追加収載されている。

これらは約11万点の証拠標本に基づいており、科の配列は最新の『新維管束植物分類表』（米倉 2019）に従っている。また、『富山県植物誌』に掲載された植物のうち、改訂版では取り扱いが変わる植物や課題のある植物について注釈を略記している。

この結果チェックリストには、シダ植物 277、裸子植物 35、被子植物 2710、計 184 科 3022 分類群のほか、未確認種等が記載されている。以下は概要である。

1) 新たに確認された植物 952 分類群

①在来種 546 分類群

ヤチスギラン、クラガリシダ、アマナ、ミズチドリ、カモメラン、フガクスズムシソウ、カヤラン、ナガエスゲ、ミチノクホタルイ、ロツククイ、ササクサ、セイタカヨシ、クリンユキフデ、オオツルウメモドキ、アナサミスレ、ムクゲアカバナ、キセワタ、ノニガナ、アラゲヒョウタンボク、ヒュウガセンキュウ、ツボクサなど

②外来種（植栽・逸出を含む） 406 分類群

アメリカウリカワ、ナガイモ、タカサゴユリ、シラン、アメリカモジズリ、ホテイアオイ、アメリカクサイ、コツブアメリカヤガミスゲ、コガネスゲ、ホソミキンガヤツリ、コヌカグサ、ヌカススキ、オオスズメノテッポウ、コバンソウ、カラスノチャヒキ、ジュズダマ、カモガヤ、シナダレスズメガヤ、ドクムギ、シマスズメノヒエ、アオスズメノカタビラ、オオスズメノカタビラ、オオナギナタガヤ、ヒメウズ、トウコマツナギ、カラメドハギ、ネビキクスダマツメクサ、コゴメウツギ、コアカソ、ミチタネツケバナ、ネバリノミノツヅリ、ムシトリマンテマ、イヌハコベ、ノミノコブスマ、ホコガタアカザ、ハナハマセンブリ、ハマワスレナグサ、フラサバソウ、タケトアゼナ、キキョウソウ、イワヨモギ、ヒメヨモギ、ハイコウリンタンポポ、ハネミギクなど

2) 未確認種（亜種、変種を含む） 140 分類群

①『富山県植物誌』に記載があるが確実な標本が無いもの 131 分類群

チシマヒカゲノカズラ（情報不足）、ミヤマハナワラビ（情報不足）、ミヤマノキシノブ、マムシグサ、シロテンマ（情報不足）、ヒメムヨウラン（情報不足）、キバナノショウキラン（情報不足）、ミズギボウシ（コバギボウシに再同定）、ミヤマアシボソスゲ（アシボソスゲに再同定）、ヌカボガエリ（情報不足）、オニシバ、ヤマトリカブト、バイカオウレン（キタヤマオウレンに再同定）、スハマソウ、ベニバナヤマシャクヤク（I類）、チャルメルソウ、チチツパベンケイ、フジキ（ユクノキに再同定）、タンキリマメ（絶滅）、ヒロハクサフジ（情報不足）、タカトウダイ、シバタカエデ、フジハタザオ、チシ

マツガザクラ、イワナンテン、アズマシャクナゲ、フナバラソウ（絶滅）、エチゴルリソウ（ヤマルリソウに再同定）、オオバイボタ、ヒシモドキ（絶滅）、セキヤノアキチョウジ（サンインヒキオコシに再同定）、タツナミソウ、シソバタツナミ、ミヤマクマバナ、モリアザミ、カセンソウ、トウゲブキ、ウゴツクバネウツギ、シシウド、ハナウドなど

②『富山県の絶滅のおそれがある野生生物』に記載があるが確実な標本が無いもの 9分類群

アツモリソウ（情報不足）、ヤマラッキョウ（情報不足、植栽と判断）、サワトラノオ（情報不足）、チシマセンブリ（準絶滅危惧：タカネセンブリに分類替え）、イワギリソウ（情報不足）、タヌキモ（情報不足）、ツルギキョウ（情報不足）、ヒダアザミ（Ⅱ類）、ミヤマアキノノゲシ（情報不足）

4. チェックリストの印刷・配布

2021年3月完成版チェックリスト原稿に、それ以降に確認されたハマナタマメとグンバイヅルを追加して最終原稿とし、再度校正を行って10月にWeb入稿。10月29日に製本700部が納品された。編集作業や追加配布用の事務局留置き分112冊を除いた主な配布先は、次のとおりである。

1) 郵送 376冊

①県内外の大学、植物園、博物館等の研究機関、および個人 196冊（うち県外166冊）、②県内15市町村教育委員会、図書館、博物館 60冊、③帰化植物メーリングリスト会員（すべて県外）50冊、④植物関係雑誌編集委員、植物園協会関係者（すべて県外）20冊、⑤地方植物誌研究者、コンサルタント会社ほか 34冊、⑥植物園入園者からの配布希望 16冊

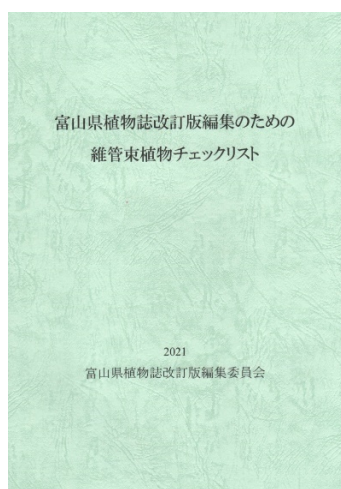
2) 手渡し等 212冊

①編集委員、植物園職員・友の会関係者 100冊、②富山県関係者、県立学校等 76冊、③富山県生物学会会員、個人研究者、マスコミ等 36冊

5. チェックリストの広報・周知

1) 富山県生物学会研究発表会

11月28日、富山市科学博物館で開催された令和3年度富山県生物学会研究発表会で、チェックリスト発行の経緯、意義、明らかになったことなどを発表し、手渡しで9冊配布した。



刊行されたチェックリスト(A4判)

和名	学名	文献	標本	外来等	国	富山
小葉類	LYCOPHYTA					
ヒカゲノカズラ類	LYCOPODOS					
ヒカゲノカズラ科	Lycopodiaceae					
ヒメスギラン	<i>Huperzia miyoshiana</i> (Makino) Ching	富誌	TO, TY			
コスギラン	<i>Huperzia selago</i> (L.) Bernh. ex Schrank et C.F.P. Mart.	富誌	TO, KANA			
ホソバトウゲシバ	<i>Huperzia serrata</i> (Thunb.) Trevis. 高地のものにはミヤマトウゲシバ(<i>Huperzia montana</i> Siev.) またはこれと の中間型と考えられるものがあるが、今後検討を要する	富誌	TO, TY			
ヒロハトウゲシバ	<i>Huperzia javanica</i> (Siev.) Franks-Jenk. × <i>H. serrata</i> (Thunb.) Trevis 既存のトウゲシバ(広義)とされているものも含めて、今後検討を要する	富誌	TO, TY			
ミズスギ	<i>Lycopodiella cernua</i> (L.) Pic. Serm.	富誌	TO, TY			Ⅱ類
ヤチスギラン	<i>Lycopodiella inundata</i> (L.) Holub		TY			準当
ミヤマヒカゲノカズラ	<i>Lycopodium alpinum</i> L.	富誌	TO, TY		EN	不足
チシマヒカゲノカズラ	富誌は狭義ミヤマヒカゲノカズラの近縁として、改訂版では広義 ミヤマヒカゲノカズラとし区別しない。狭義チシマヒカゲノカズラは未確認	富誌			EN	不足
スギカズラ	<i>Lycopodium annotinum</i> L.	富誌	TO, TY			
シノノスギカズラ	富誌はスギカズラの近縁としているが、改訂版では広義スギカズラと区別しない	富誌				
タカネスギカズラ	富誌はスギカズラの近縁としているが、改訂版では広義スギカズラと区別しない	富誌	TO, TY			
エノヒカゲノカズラ	<i>Lycopodium clavatum</i> L. var. <i>asiaticum</i> Ching	富誌	TO			
ヒカゲノカズラ	<i>Lycopodium clavatum</i> L. var. <i>nipponicum</i> Nakai	富誌	TO, TY			
アスヒカズラ	<i>Lycopodium complanatum</i> L.	富誌	TO, TY			
タカネヒカゲノカズラ	<i>Lycopodium nikoense</i> (Franch. et Sav.) Franch. et Sav. ex Nakaike	富誌	TO, TY			
マンネンスギ	<i>Lycopodium obscurum</i> L.	富誌	TO, TY			
スギラン	<i>Phlegmarium crustumierianum</i> (Maxim.) Satou	富誌	TO, TY		VU	準絶

チェックリストの内容の一部

2) 富山県中央植物園研究発表展、および発表会

2022年1月14日から2月23日まで開催された令和3年度富山県中央植物園研究発表展でチェックリスト発行についてポスター発表し、希望者16名に郵送配布した。

1月30日に行われた発表会では、サンライトホールに特設スクリーンを設置し、パワーポイントを使った学会発表形式でチェックリスト発行とその意義について口頭発表した。



中央植物園研究発表展でのポスター発表



中央植物園研究発表会での口頭発表

3) 帰化植物メーリングリストへの配信・周知

分類学関係者が多数参加している「帰化植物メーリングリスト」でチェックリストの発行と希望者への送付について周知を行なったところ、二日間で40件の申し込みがあり、50冊を郵送した。

6. チェックリスト配布の効果

以下のコメントや情報・標本の提供を受けた。また、3団体と雑誌交換をすることになった。

- 絶滅とされているシャシャンボは、最近氷見の海岸近くの山で自生を見た。
- 外来種アカバナメドハギをダム工事現場の法面で確認した。
- キタメヒシバの記載がないが、どのような扱いをしているのか。
- ヘビイチゴ属は、最新のデータから *Duchesnea* でなくキジムシロ属 *Potentilla* とすべき。
- 他県でフタバムグラとナガエフタバムグラがニッチの違う場所に自生している事例がある。
- 脱粒性が強く独自の生活環を持つ野生型イネが他県で確認されている。
- イヌコモチナデシコと同所的環境にミチバタナデシコが生育している可能性がある。
- オニグジョウシノとミヤマザサと同定できる富山県産標本を標本庫（KYO）で確認した。

引用文献

大田 弘・小路登一・長井真隆. 1983. 富山県植物誌. 廣文堂, 富山.

大原隆明. 2017. 富山県植物誌改訂版編集委員会の活動から. *Bunrui* 17: 7-13.

富山県生活環境部自然保護課. 2012. 富山県の絶滅のおそれのある野生生物ーレッドデータブックとやま 2012ー. 富山県

米倉浩司. 2019. 新維管束植物分類表. 北隆館, 東京